

令和3年度気仙沼市病院事業の取組に係る 点検及び評価報告書 資料編



各取組項目については、以下の区分で評価をしています

評価区分

A	定量的な目標	計画どおり目標が達成され、評価できる
	定性的な目標	組織一丸となってこれまで以上に取り組み、評価できる
B	定量的な目標	計画どおりの目標は未達成であるが、目標値に近く、やや評価できる
	定性的な目標	特定の部署が、これまで以上に取り組み、やや評価できる
C	定量的な目標	目標達成に向けた取組が不十分で、計画が未達成であり、今後の取組に期待する
	定性的な目標	これまでの取組と特に変わらず、今後の取組に期待する
D	定量的な目標	目標達成に向けた取組方法についての検討段階であり、今後の取組に大いに期待する
	定性的な目標	これまでの取組より活動量が減り、今後の取組に大いに期待する
E	定量的な目標	未実施
	定性的な目標	未実施

経営の効率化に向けた取組状況とその評価

気仙沼市立病院

新型コロナウイルス感染症の影響により、病床管理が困難な中、前年度並みの病床利用率を確保したほか、DPC(※)の導入に向けた準備、未収金対策の徹底に取り組みました

市立病院 経営の効率化に向けた取組(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の取組状況	各年度の評価					
			R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	
市立病院	収益向上策	病床管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 病床利用率はR2年度の70.0%より0.5ポイント上昇し、70.5%となった。病棟ごとの目標設定を継続しつつ、毎日のミーティングで空床状況を共有するなど、患者確保と病床管理の適正化に努めた 新型コロナウイルス感染症に対応するため、R3年度も継続してコロナ専用病床を確保したことから、臨時入院受入れ時のベッドコントロールに苦慮することがあり、看護部長室でベッドコントロールを行った。また、回復期リハビリテーション病棟に、一定数の療養・転院待ち患者等を入棟させるなど効率的な運用に努めた結果、1日当たり入院患者数は239.6人となり、R2年度の238.0人と同水準の患者確保に繋がった 	B	C	B	B	B
		診療部門と医事課の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 医療の標準化・効率化を進めるため、R4年度からのDPC導入を決定し、導入に向けた研修会を実施した (診療部門対象の研修:4回実施, 看護部・薬剤科対象の研修:2回実施) 	A	B	B	B	C
		未収金対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> R元年度から実施している弁護士法人へ未収金徴収業務の一部委託を継続するとともに、債務者の徴収計画を策定し、医事課職員による訪問徴収を夜間も実施した R3年度の徴収額は32,893千円となり、過年度未収金に対する回収率は7.5ポイント上昇し、54.7%となった 発生防止に向け、連帯保証人代行制度、医療費後払システム導入及び救急患者預り金クレジットカード対応等の検討を進めた 	A	A	B	C	C
		市民への検診啓発	<ul style="list-style-type: none"> 検診(健診)担当医を配置できず、一般健診及び脳ドックのみ対応した 検診(健診)担当医の確保は、今後の継続課題となっている 	C	C	C	C	C

医薬品・診療材料は、引き続き、ベンチマークシステムを活用し、納入価格の低減に取り組みました

市立病院 経営の効率化に向けた取組(2)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の実施状況	各年度の評価				
			R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	費用削減策 医薬品、診療材料、物品購入価格の低減化	<p>【医薬品】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続して後発医薬品・バイオシミラー薬(※)への切替を積極的に進めた結果、後発医薬品への切替割合はR2年度の86.4%から87.5%に、バイオシミラー薬への切替割合はR2年度の52.0%から61.5%に上昇しており、医薬品購入金額の低減に取り組めた 全国自治体病院協議会の医薬品ベンチマーク分析システムを活用し、ベンチマークの値引率を参考に価格交渉を実施した <p>【診療材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> R2年度に導入したベンチマークシステムを活用して、院内で使用している医療材料のコスト比較分析、切替候補製品の検討に継続して取り組んだ <p>【医療機器関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器整備委員会において、整備要望機器を厳格に審査しており、R3年度は、医療機器購入申請3件(約6,000万円)を見送るなど、適切な機器購入に努めた 	A	A	B	B	C
	内視鏡等の中央化	<ul style="list-style-type: none"> これまで中央管理していた医療機器の管理を継続した 人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、フットポンプ及びメラ低圧吸引器の点検は治療終了ごとに、手術室麻酔器の点検は週2回実施した 	B	B	A	A	A

R3年度もボランティアの活用を見送りましたが、患者が安心して受診できる環境整備に病院全体で取り組みました。これまでの待ち時間短縮等の取組成果が現れ、患者満足度も入院・外来ともに改善しました

市立病院 経営の効率化に向けた取組(3)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価					
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	
市立病院	サービス向上策	患者満足度調査	<ul style="list-style-type: none"> R3年11月に入院・外来で患者満足度調査を実施した 前回調査(R元年度実施)による患者満足度は、外来64.8%、入院79.7%という結果だったが、今回の調査では入外ともに満足度が上昇し、過去最高の評価が得られた。 	外来:71.1% 入院:80.8%	B	E	C	C	E
		待ち時間短縮	<ul style="list-style-type: none"> 予約診療制の徹底を図るとともに、外来患者の会計が混み合う時間帯は会計入力職員を加配するなど、待ち時間短縮に向けた取組を継続し、その結果、受付から会計までの平均所要時間は、前回調査(H29.11月時点)の2時間46分より26分短縮され、2時間20分となった 	R3年12月実績 2時間20分	A	A	A	A	A
		病院機能評価受審検討	<ul style="list-style-type: none"> 5月に臨時診療管理会議を開催し、R4年度受審に向けてキックオフした 病院機能評価の各領域について、該当部署ごとに現状分析、自己評価、課題抽出など、受審に向けた準備を行った 	—	A	B	D	D	D
		ボランティアの活用	<ul style="list-style-type: none"> 総合患者支援センター(がん相談支援)での相談業務について従事者を確保しているが、新型コロナウイルス感染症が収束していない段階での導入は困難なため、見送った 	—	D	D	D	E	E
		その他	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードによるオンライン資格確認システムを導入し、患者の資格確認の簡素化を推進した 車椅子患者からの意見を受け、収納窓口前待合、検査受付前待合及びA・B・Cブロック待合に、車椅子優先待合スペースとなるマークを床に表示し、車椅子患者の快適な利用環境を整備した 入院患者への面会を禁止している中、患者とその家族の不安を解消するため、R3年11月からタブレット端末を活用した「オンライン面会」を始めた 	—	A	—	—	—	—

入院・外来収益の増加，診療材料に対するコスト削減の取組成果に加え，新型コロナウイルス感染症対策の補助金によって経常収支比率が大幅に改善しました

市立病院 収支改善に係る数値目標について(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R3年度の取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
					R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	収支改善	経常収支比率 参考値:96.6%	<ul style="list-style-type: none"> R3年度の経常収支比率は，R2年度実績の96.6%と比べ，11.7ポイント上昇し，108.3%となった 新型コロナウイルス感染症対策の補助金に加え，旧病院の残債移管に伴う企業債償還金の減少などにより，経常収支比率が大幅に改善した 	108.3%	A	A	B	B	C
		医業収支比率 参考値:87.8%	<ul style="list-style-type: none"> R3年度の医業収支比率は，R2年度実績の77.2%と比べ，3.1ポイント上昇し，80.3%となった 新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも，入院・外来ともに前年度と同水準の患者数を確保していることに加え，急性期一般入院料1を1年間を通して算定した他，地域医療体制確保加算など新たな診療報酬の確保を図ることで，診療単価の底上げができた 	80.3%	B	B	B	C	C
	経費削減	職員給与費対医業収益比率 参考値:46.2%	<ul style="list-style-type: none"> R3年度の職員給与費対医業収益比率は，R2年度実績の58.9%と比べ，4.6ポイント改善し，54.3%となった 医師・研修医の増員により，常勤職員給与費が増加したものの，診療応援医師の報酬がその他経費に計上されたことに加え，医業収益の伸びが大きかった。なお，その他経費に計上された診療応援医師の報酬をこれまでどおり給与に計上した場合の給与費対医業収益比率でも57.7%となり，1.2ポイント改善している 	54.3%	B	B	B	B	B
		材料費対医業収益比率 参考値:22.8%	<ul style="list-style-type: none"> R3年度の方法費対医業収益比率は，R2年度実績の22.6%とほぼ同等の22.7%となった 薬剤科主導による後発医薬品への切替えや医療材料管理委員会がコスト削減の取組を継続した 	22.7%	A	A	B	B	C

新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、入院・外来ともに前年度とほぼ同水準の患者を確保できました

市立病院 収支改善に係る数値目標について(2)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R3年度の取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
					R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	収入確保	病床利用率 参考値:92.1%	<ul style="list-style-type: none"> 各病棟で目標患者数の設定を継続するとともに、看護部内で入退院情報の共有を図るなどして、ベッドコントロールに取り組み、病床利用率の適正化に努めた。その結果、R3年度の1日当たり入院患者数は239.6人(R2年実績:238.0人)となっており、前年度と同水準の患者を確保できた 	70.5% (84.4%)	B	C	B	C	C
		1日当たり入院患者数 参考値:313人	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対応するため空床としている分を除いた病床利用率は84.4%であり、R2年度実績74.3%より10.1ポイント上昇した 入院単価はR2年度実績48,881円を上回り、49,716円となった 	239.6人	B	C	B	C	C
		1日当たり外来患者数 参考値: 1,015人	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響による外来受診控えの影響や病診連携が進んでいることもあり、1日当たり882.9人となった 国・県が推進する医療機能の分化を踏まえ、病状の安定している患者は地域のかかりつけ医へ積極的に逆紹介を進めると同時に、当院で診療が必要な患者には適切な診察・検査を行った 外来診療単価はR2年度実績14,489円を上回り、14,801円となった 	882.9人	B	B	B	B	C
	経営安定化	医師数 (研修医含む) 参考値:54人	<ul style="list-style-type: none"> 市長・事業管理者が東北大学医学部等を訪問し、医師派遣について継続して依頼した結果、これまで常勤医不在だった耳鼻咽喉科の医師2名が常勤となり、地域で不足している医療の確保という面でも成果を残した 	59人	A	A	A	A	A

医療収益は過去最高を記録し、新型コロナウイルス感染症に対する病床確保料が増加したこともあり、R3年度は純利益7.6億円の黒字決算とすることができました

市立病院の収支推移

損益計算書 (単位:百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
医療収益	7,505	7,410	7,756	7,943	7,559	7,972
医療費用	8,442	8,707	10,121	10,074	9,785	9,928
医療損益	△937	△1,297	△2,365	△2,130	△2,226	△1,957
医療収支比率	88.9%	85.1%	76.6%	78.8%	77.2%	80.3%
医療外収益	701	742	2,023	1,826	2,467	3,389
医療外費用	444	499	544	578	592	566
経常損益	△680	△1,054	△886	△882	△352	867
経常収支比率	92.3%	88.6%	91.7%	91.7%	96.6%	108.3%
特別利益	0	1	1	0	1,266	0
特別損失	16	57	36	7	1,775	107
当期純利益	△696	△1,110	△921	△889	△860	760
資本剰余金の処分 と資本金の減少	—	—	—	—	—	3,802
当期未処分利益	△7,693	△8,803	△9,724	△10,614	△11,474	△6,911

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、入外延べ患者数、単価の両面で前年度を上回り、収入が過去最高となりました

市立病院 収入の内訳(R3年度実績)

収入	R3年度実績 (単位:百万円)
1 医業収益	7,972
(1)料金収入	7,511
(2)その他	461
うち他会計負担金	359
2 医業外収益	3,389
(1)他会計負担金・補助金	765
うち基準外繰入	91
旧病院企業債利息分	79
新病院企業債利息分	11
(2)国(県)補助金	1,439
(3)長期前受金戻入	1,057
(4)その他※	128
経常収益	11,361

料金収入

入院収益	=	延患者数	×	入院1日当たり単価
4,348百万円		合計:87,459人 一般:74,437人 回復期:12,389人 感染症:633人		全体:49,716円 (一般・回復期)
外来収益	=	延患者数	×	外来診療単価
3,162百万円		213,656人 (1日当たり:882.9人)		全体:14,801円

その他

その他医業収益				
室料差額収益	公衆衛生活動収益	医療相談収益	その他医業収益	他会計負担金
23百万円	42百万円	1百万円	35百万円	359百万円

※附帯事業収益を含みます

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

R3年度は1年を通して急性期一般入院料1を算定することができたため、診療科全体の入院単価が49,716円≪税抜≫(49,719円≪税込≫)となりました

市立病院 R元年度～R3年度の診療科別収益推移(入院)

※調定額を基に作製しており、金額は税込となります。

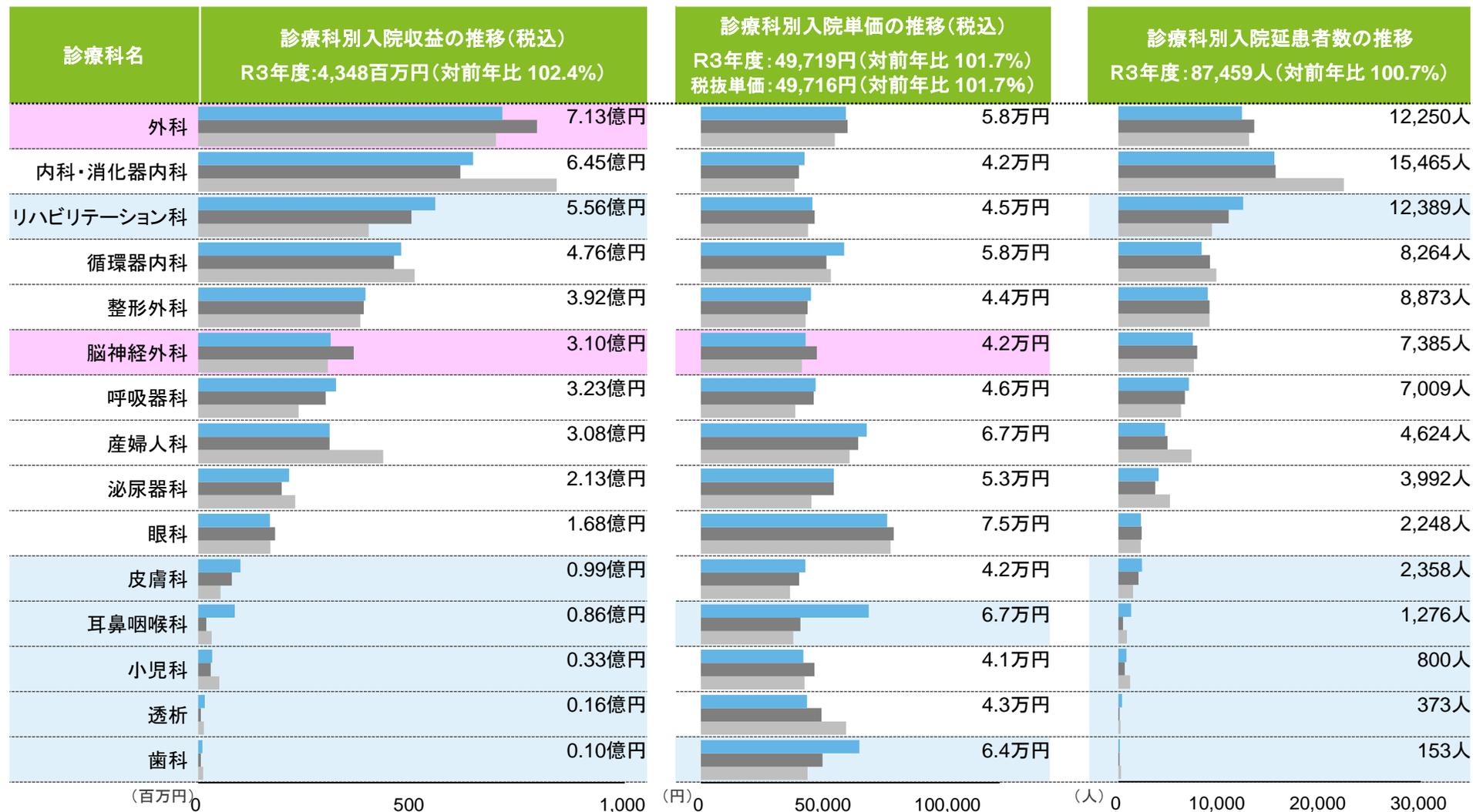
対前年比10%以上アップ

R3年度

対前年比10%以上ダウン

R2年度

R元年度

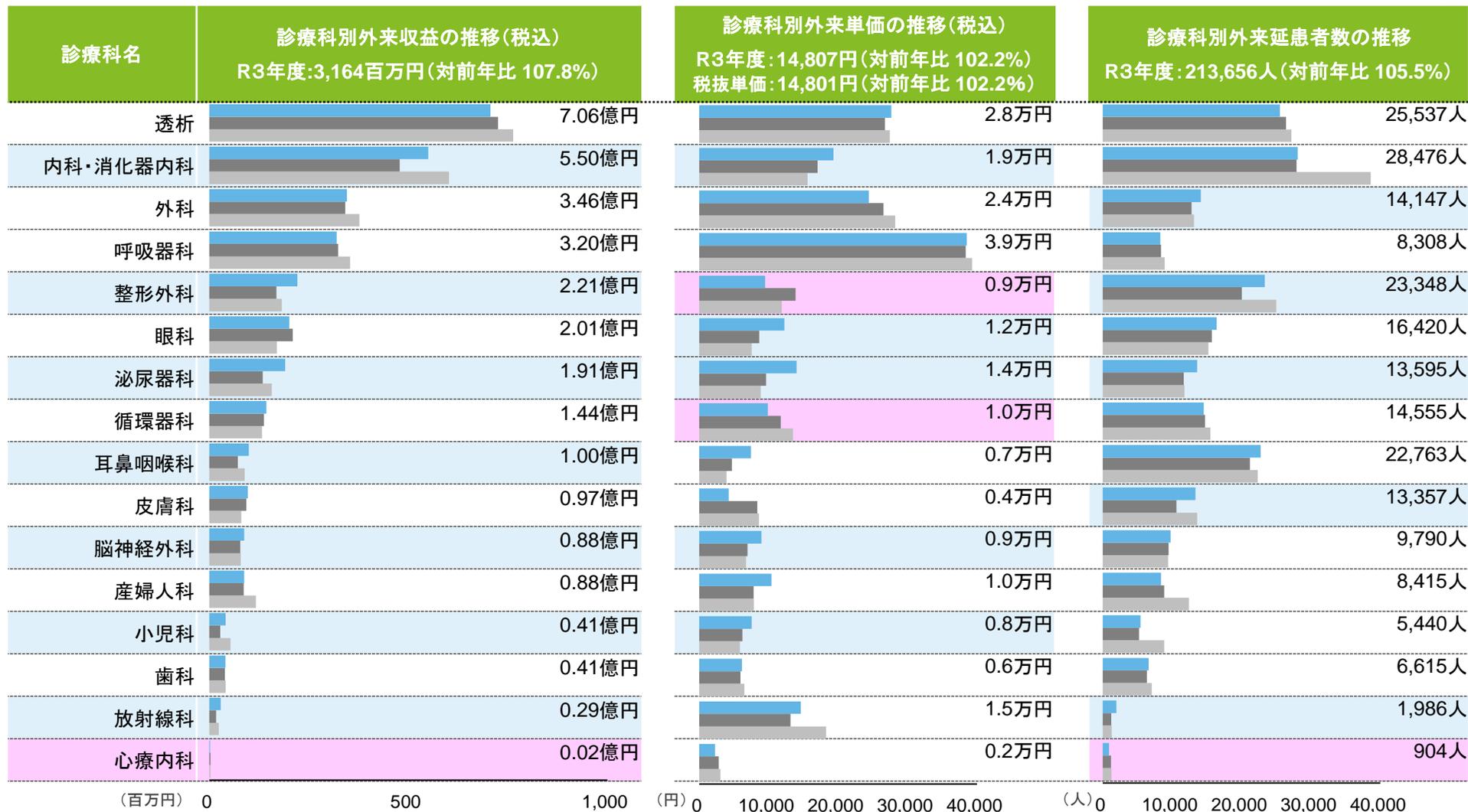


予定入院患者に対する入院前検査の推進等，外来でのより一層丁寧な診療に取り組んだ結果，外来単価も過去最高の14,801円≪税抜≫（14,807円≪税込≫）となりました

市立病院 R元年度～R3年度の診療科別収益推移(外来)

※調定額を基に作製しており，金額は税込となります。

対前年比10%以上アップ ■ R3年度
 対前年比10%以上ダウン ■ R2年度
■ R元年度



医師の増員による常勤職員給与費や患者が増えたことによる材料費が増加した結果、費用全体も増加となりました

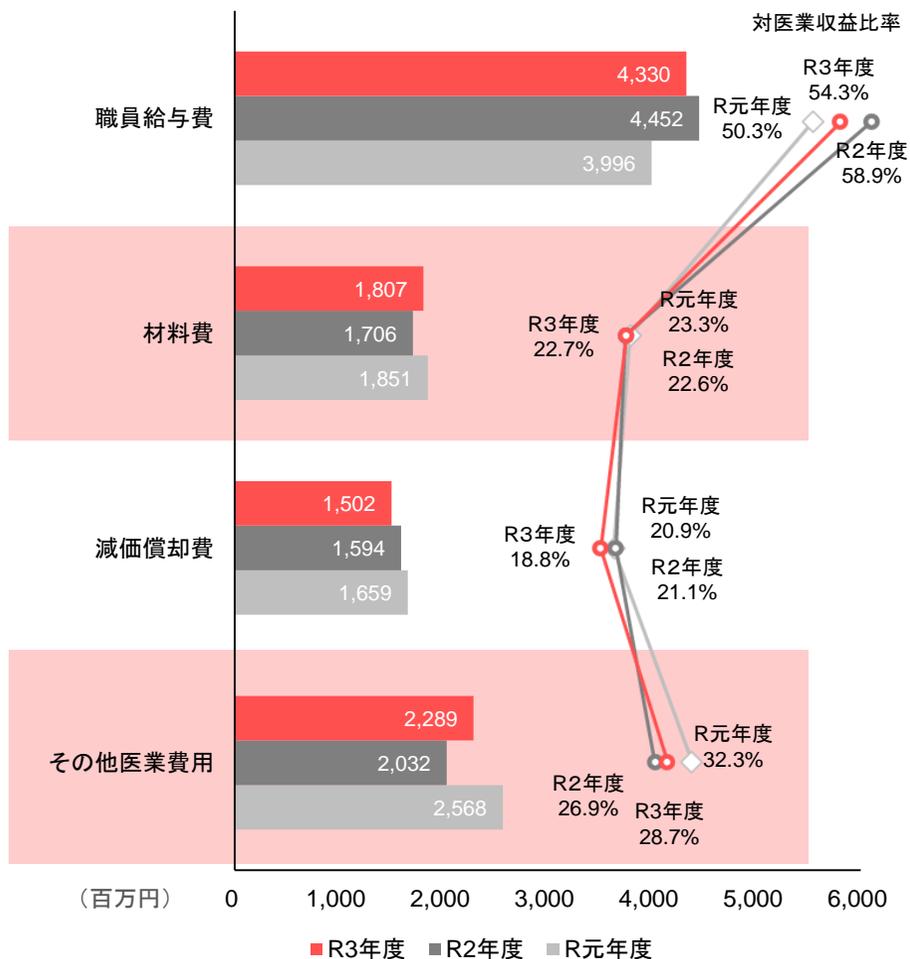
市立病院 費用の内訳(R3年度実績)

費用	R3年度実績		職員給与費	+	常勤職員	+	会計年度任用職員					
	金額 (単位:百万円)	対医業収益比率										
1 医業費用	9,928	124.5%	材料費	+	薬品費用	+	その他医療材料					
(1)職員給与費	4,330	54.3%						投薬	注射			
(2)材料費	1,807	22.7%						181百万円 (対前年: - 38百万円)	917百万円 (対前年: +84百万円)	708百万円 (対前年: +55百万円)		
(3)経費	2,255	28.3%						経費				
(4)減価償却費	1,502	18.8%						委託料	光熱水費	燃料費	修繕費	その他経費
(5)資産減耗費	27	0.3%						1,225百万円 (対前年: +13.2百万円)	97百万円 (対前年: +5.6百万円)	42百万円 (対前年: +1.3百万円)	33百万円 (対前年: +3.8百万円)	857百万円 (対前年: +245百万円)
(6)研究研修費	8	0.1%										
2 医業外費用	566	7.4%										
(1)支払利息	23	0.3%										
(2)看護学院費	111	1.4%										
(3)その他	432	5.4%										
経常費用	10,494	132.0%										

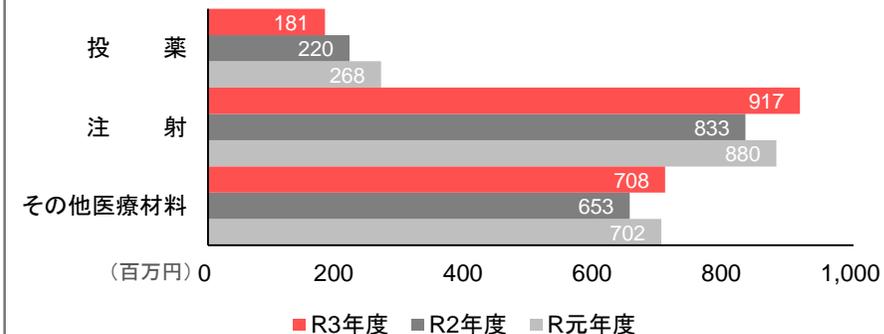
※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

後発医薬品への切替の促進, 診療材料のコスト削減の取組を継続しており, 医業収益に占める材料費の割合は22.7%となりました

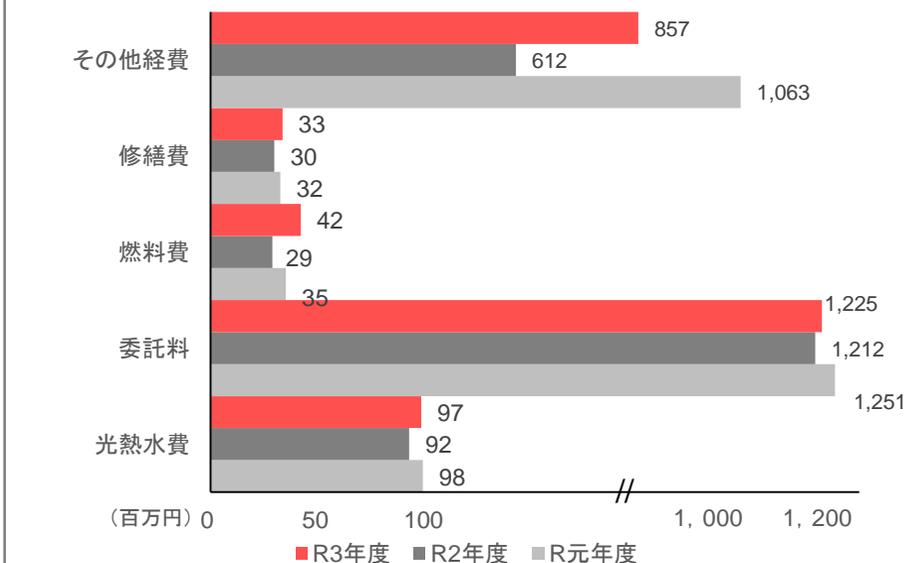
市立病院 R元年度～R3年度 費用内訳別推移



材料費の内訳ごとの年度推移



その他医業費用のうち, 経費の内訳ごとの年度推移



気仙沼市立本吉病院

R3年度もこれまでと同様、確実な診療報酬の算定と材料費の節減に取り組みました

本吉病院 経営の効率化に向けた取組(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R3年度の取組状況	各年度の評価				
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	収益向上策	診療部門と医事部門の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> R3年度は診療部門に対する勉強会等を開催することはできなかったものの、新型コロナウイルス感染症に関する臨時・時限的措置が厚生労働省から出された際は、随時各部門と情報を共有した 	B	B	A	A	B
		未収金対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> R4年3月末時点の患者負担未収金額は、1,972千円でR2年度と比較し241千円(△10.9%)減少した。また、R3年度分の未収金も6%減少し1,580千円となり、単年での未収金発生は少額に抑えられ、回収率も向上した 	A	A	A	A	A
		市民への検診啓発	<ul style="list-style-type: none"> 職場健診を継続し、地域住民の疾病予防に努めた 定期受診している方にも、健診機会時には受診するように勧めた 	C	C	C	C	C
	費用削減策	医薬品、診療材料の節減	<ul style="list-style-type: none"> これまでの取組を継続し、管理課を中心としながら価格交渉、在庫管理を徹底した 市立病院が活用している診療材料共同購入へ参加するとともに、後発医薬品を採用し、費用の削減に努めた 	A	A	A	A	A

R3年度は患者満足度調査を実施することができなかったことから、サービスの向上につなげていくためにR4年度以降は実施したいと考えています

本吉病院 経営の効率化に向けた取組(2)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R3年度の取組状況	各年度の評価				
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	サービス向上策	患者満足度調査	<ul style="list-style-type: none"> R3年度は新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえ、患者満足度調査の実施を行わなかった R4年度は患者満足度調査の実施を予定しており、サービスの向上に向けた取組を進めていくこととした 	E	B	A	C	E
		待ち時間短縮	<ul style="list-style-type: none"> これまでと同様に、原則予約診療の徹底、医師・看護師がトリアージすることで感染拡大の防止を図りながら、診療優先順位を明確化することで待ち時間短縮に取り組んだ R3年度はR2年度より外来患者が増加し、また、発熱患者に対するドライブスルー診察は時間を要することもあり、予約患者は平均29分(前年比+6分)、予約外患者は平均54分(前年比+12分)となった 	B	B	B	C	C

新型コロナウイルス感染症が拡大した中でも、医業収益を増加させたことにより、各経営指標は前年度を上回ることができました

本吉病院 収支改善に係る数値目標について(1)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R3年度の取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
					R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	収支改善	経常収支比率 参考値: 100.1%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が拡大している中、前年度と比較し1日当たり外来・入院患者数ともに増加したことにより、外来収益が31,750千円、入院収益が5,763千円増加した 繰入金はR2年度と同水準を確保したこともあり、R3年度の経常収支比率は、R2年度実績の99.7%と比べ、5.1ポイント上昇し、104.8%となった 	104.8%	A	B	B	A	A
		医業収支比率 参考値: 60.6%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が拡大しているものの、一日当たりの外来患者数がR2年度実績93.9人より9.8人増加し、103.7人となった 入院患者数はR2年度実績の延7,256人より129人増加した延7,385人となり、病床利用率はR2年度と比較し1.3ポイント上昇し、74.9%となった その結果、医業収支比率はR2年度と比較し6.1ポイント上昇し70.1%となった 	70.1%	A	A	A	A	A
	経費削減	職員給与費対医業収益比率 参考値: 95.1%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への対応、増加した入院・外来患者への対応等、負担は増えてはいるものの、前年度と同程度の職員給与費に抑えることができたため、医業収益の増加に伴い職員給与費対医業収益比率はR2年度と比較し6.5ポイント改善し、88.6%となった 	88.6%	A	B	A	A	B

新型コロナウイルス感染症が拡大している中、限られた人員体制の中で、入院は前年度とほぼ同程度、外来は1日当たり10人増の患者に対応した

本吉病院 収支改善に係る数値目標について(2)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R3年度の取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
					R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	収入確保	病床利用率 参考値:72.0%	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者の適切な受入れと、医師・看護師によるベッドコントロール、市立病院との連携を継続した結果、R2年度の延べ患者数7,256人と同程度の7,385人の入院患者を受け入れた 市立病院との連携において、市立病院の長期入院患者を受け入れる後方機能を果たし、2病院間での患者連携に注力した 	74.9%	A	A	A	A	A
		1日当たり入院患者数 参考値:18人		20.2人	A	A	A	A	A
		1日当たり外来患者数 参考値:115人		103.7人	B	B	A	A	A
	経営安定化	医師数 (研修医含む) 参考値:5人	<ul style="list-style-type: none"> 常勤医の確保について、宮城県や東北大学病院等への要請を行った結果、R3年度も常勤医4人体制を継続することができた 臨床研修協力施設として、継続して研修医を受け入れ、後進の育成に取り組んだ 	4人	B	B	B	B	B

医業収益の増加により、R3年度は経常損益3千万円の黒字決算とすることができました

本吉病院の収支推移

損益計算書 (単位:百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
医業収益	358	398	424	397	376	422
医業費用	583	604	595	590	587	602
医業損益	△225	△206	△171	△193	△212	△180
医業収支比率	61.4%	65.9%	71.3%	67.3%	64.0%	70.1%
医業外収益	249	223	202	189	227	227
医業外費用	13	14	15	15	17	17
経常損益	11	3	15	△19	△2	30
経常収支比率	101.8%	100.5%	102.6%	96.9%	99.7%	104.8%
特別利益	1	0	0	0	0	3
特別損失	0	0	0	0	0	0
当期純利益	12	3	16	△19	△1	33
当期未処分利益	△114	△111	△95	△114	△115	△82

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、入外延べ患者数を伸ばすことで医業収益が対前年度を上回りました

本吉病院 収入の内訳(R3年度実績)

収入	R3年度実績 (単位:百万円)
1 医業収益	422
(1)料金収入	399
(2)その他	23
うち他会計負担金	0
2 医業外収益	227
(1)他会計負担金・補助金	212
うち基準外繰入	0
任期付職員人件費	0
(2)国(県)補助金	0
(3)長期前受金戻入	13
(4)その他	3
経常収益	649

料金収入



※総務省へ報告しているR3年度決算統計を基に作成しており、「R3年度気仙沼市決算書類」と異なります

必要経費の増加を最小限に抑えることで、ほぼ例年と同水準の支出となりました

本吉病院 費用の内訳(R3年度実績)

費用	R3年度実績	
	金額 (単位:百万円)	対医業収益比率
1 医業費用	602	142.7%
(1)職員給与費	373	88.6%
(2)材料費	51	12.1%
(3)経費	149	35.3%
(4)減価償却費	27	6.4%
(5)資産減耗費	1	0.3%
(6)研究研修費	0	0.0%
2 医業外費用	17	7.4%
(1)支払利息	1	0.2%
(2)看護学院費	0	0%
(3)その他	17	3.9%
経常費用	619	146.8%

職員給与費

常勤職員

324百万円
(対前年: +8百万円)
対医業収益比率: 76.9%

+

会計年度任用職員

49百万円
(対前年: -1百万円)

材料費

薬品費用

投薬

4.3百万円
(対前年: +0百万円)

注射

14.6百万円
(対前年: +1.8百万円)

+

その他医療材料

27.3百万円
(対前年: +1.8百万円)

+

給食材料費

4.7百万円
(対前年: -0.3百万円)

経費

委託料

83.8百万円
(対前年: +2.0百万円)

光熱水費

7.3百万円
(対前年: +0.3百万円)

燃料費

2百万円
(対前年: +0.3百万円)

修繕費

2.6百万円
(対前年: +0.6百万円)

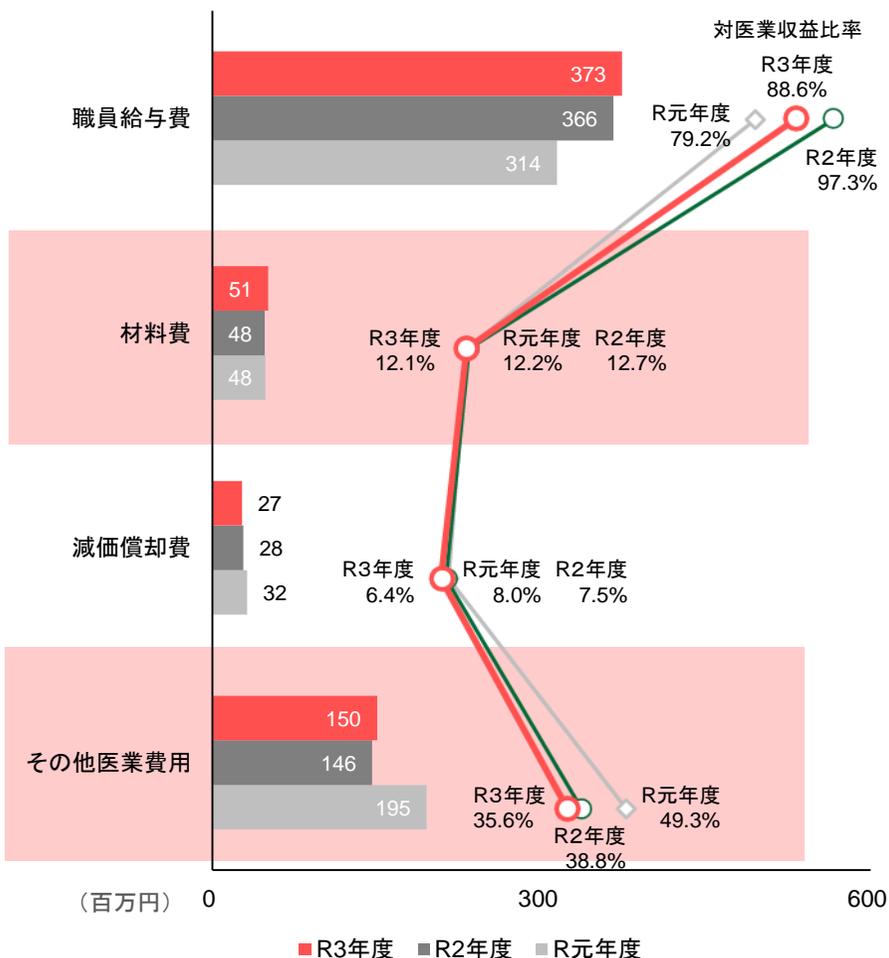
その他経費

53百万円
(対前年: +0.3百万円)

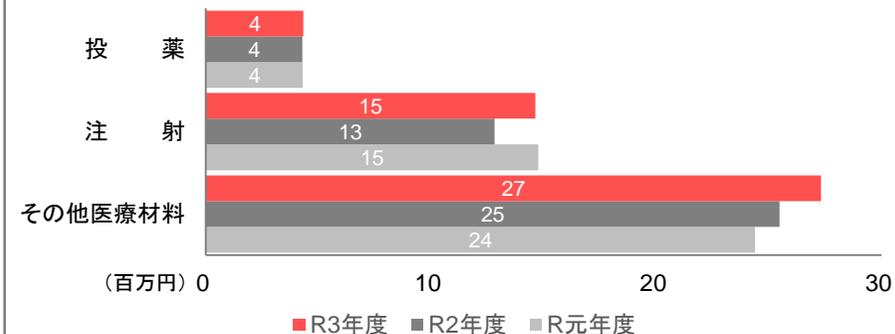
※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

R3年度は患者が増加したことに伴い、医薬品・材料の支出が増加していますが、営業収益比率では同水準を維持できました

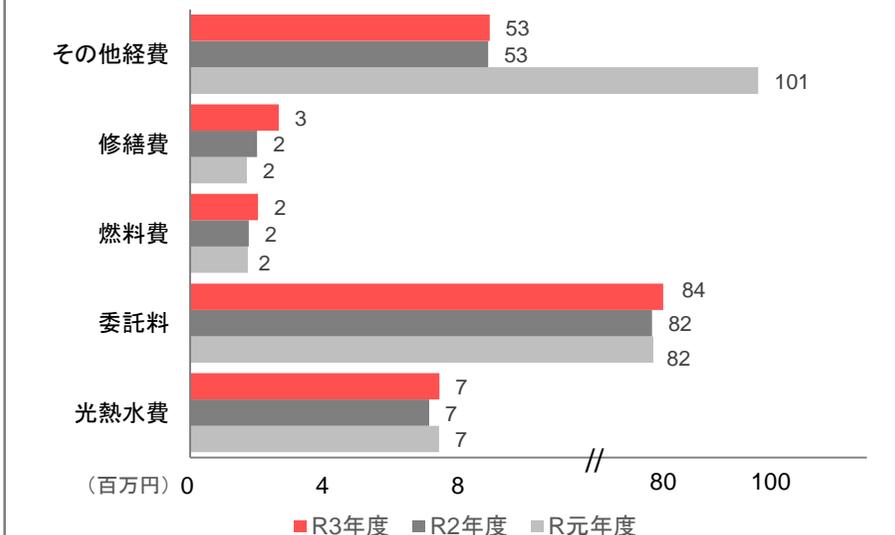
本吉病院 R元年度～R3年度 費用内訳別推移



材料費(給食材料費を除く)の内訳ごとの年度推移



その他医療費用のうち、経費の内訳ごとの年度推移



地域医療構想を踏まえた役割の明確化に 向けた取組状況とその評価

地域における医療ニーズを踏まえ、市立病院は急性期と回復期の一部、本吉病院は急性期と在宅医療など、役割に応じた医療を提供するとともに、回復期機能の充実に向けた更なる取組を検討しました

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の実績状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	地域医療構想を踏まえ、回復期病床を新設	<ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリテーション病棟フルオープンに向けて、看護師・リハビリ技師の確保に努め、回復期病床の理学療法士をR2年度より1名増員し、21名体制となったことで、稼働病床40床の安定稼働に繋がった 急性期の後方機能を担っていた入院病床の減少や地域に不足する回復期機能の充実のため、地域包括ケア病棟の導入に向けた研究を本格的にスタートした 	40床/48床	A	A	A	A	A
	救急医療、周産期医療などを維持継続し、気仙沼地域の中核的病院として、本地域に不可欠な医療提供体制の維持	<ul style="list-style-type: none"> 感染症、リハビリ、周産期、小児、救急、高度医療など、圏域の中核病院に求められる医療を提供し、必要な体制の維持に取り組んだ 引き続き、県からの要請により新型コロナウイルスの感染者・感染疑いの患者に対応するとともに、市及び市医師会の要請に応じ、延235人の医師、延401人の看護師が新型コロナウイルスワクチン集団接種業務に従事した 救急車の受入れが前年度より203件増加し、2,110件だった 	—	A	A	A	A	A
本吉病院	在宅医療の推進と市立病院との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、県からの要請により新型コロナウイルス感染症について、休日を問わず、ドライブスルー診察を実施するとともに、市及び市医師会の要請に応じ、新型コロナウイルスワクチン集団接種の本吉会場の運営(66日間)を行い、延132人の医師、延264人の看護師が従事した 全部適用に伴い、病院事業局が設置されたことにより、2病院の経営を一体的に管理できる体制となったことから、患者を中心とした連携に加え、病院事業局会議を立ち上げ、経営面での連携も進めた これまでの薬剤師・放射線技師の人事交流に加え、看護師の人事交流に向けた準備を行い、市立2病院による急性期・回復期～在宅までの切れ目のない連携の構築に取り組んだ 	—	A	A	A	A	A

新型コロナウイルス感染症禍においても、医療・介護・福祉連携、医療人材の育成・教育の面で地域貢献に取り組みました

地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の実績状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	地域医療連携室(※)を中心とした、保健・医療・福祉・介護との連携	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌「つなぐ」を発行し、各事業所等へ配布するなど、総合患者支援センターの紹介、入退院支援業務や前方連携業務に関する実績の情報提供を行い連携強化に努めた 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域医療交流会の開催や院外の関係者を対象とした退院支援に関わる研修会は開催できていないことから、地域の保健・医療・福祉・介護に関する事業者と、Web等を活用した連携について検討した 	—	A	A	B	B	C
	介護事業所等の各種研修会に対して認定看護師を講師として派遣	<ul style="list-style-type: none"> 認定看護師を各看護学校や福祉・介護施設へ講師派遣しており、特に、感染管理認定看護師2名が、新型コロナウイルス感染症対策の講師として、市主催の研修会等へ参加するとともに、WEB等の研修会にも積極的に参加し、最新情報の更新に努めた 	—	A	A	B	B	C
本吉病院	住民との対話の機会を増やし、地域で必要とされる医療の把握に努め適切な対応ができるよう病院の体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、理学療法士による出張講座を開催し、本吉地区の住民に対する健康講座を開催した 本吉子育て支援センター広報誌に定期的に子供の病気について解説を掲載した 	—	B	B	B	B	B

※ 現在の総合患者支援センター

市立病院では、医療機器等整備を厳格に審査し、企業債の新規発行を抑えるなど、基準外繰入額の減少に努めました

一般会計負担の考え方

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度 of 取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	「経営安定・健全化に向けた方策と長期収支計画」に基づき、基準外繰入の解消を目指した取組を進める	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器の整備については、補助金を有効活用することにより、R3年度も企業債の発行を控えた 	R3年度 企業債発行額 0百万円					
		<ul style="list-style-type: none"> R2年度末に旧病院施設を市へ移管したことから、収益的収入に計上される旧病院に関する基準外繰入金が減少した 医療機器の購入については、医療機器整備委員会で厳格に審査し、必要最低限に留めてきたことで、資本的収入に計上される基準外繰入金もR2年度から約94百万円減少した 	R3年度基準外繰入額 実績額 291百万円 うち 収益的収支 91百万円 資本的収支 200百万円	B	B	B	B	B
本吉病院	料金収入の増加と経費の抑制に努め、繰入金の減額を目指した取組を進める	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響がある中、診療等による料金収入の適切な確保、費用の抑制に努めており、その結果繰入金は基準額以内となった 	R3年度 繰入金実績 219百万円	A	A	A	A	A

医療機能・品質の向上に向け、引き続き効率的で質の高いリハビリテーションの提供、安心して出産ができる環境整備に取り組みました

医療機能等指標に係る数値目標(市立病院)

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価					
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	
市立病院	医療機能 ／ 医療品質	リハビリテーション単位数 参考値: 57,000単位	<ul style="list-style-type: none"> 総リハビリテーション提供単位数は、R2年度実績と比べ7,204単位増加した。特に、回復期リハビリテーション病棟において、運動器リハビリテーションの単位数が、R2年度実績と比べ5,549単位増加しており、また、当該病棟で療養・転院待ち患者等を一定数受け入れたこともあり、廃用症候群リハビリテーションの単位数もR2年度実績と比べ4,079単位増加した リハビリテーション技師1人あたりの取得単位数は、R2年度の15.2単位から0.5単位増加し組織全体で15.7単位となっており、生産性向上を意識し取り組んでいる成果が表れている 	119,051 単位	A	A	A	A	A
		分娩件数 参考値: 440件	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響で、産前に実施していた母親学級は中止しているものの、引き続き小児科との連携を図り、当院で安心して出産してもらえるよう、患者に寄り添ったケアを実施した R3年1月から市が行う産後2週間後健診に全面的に協力することにより、患者を積極的に受入れ、産後のメンタル面に対するフォローの強化に努めた 	296件	B	B	B	B	C
	臨床研修医受入人数 参考値: 10人	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修医の受入状況は、1年目の研修医が6名、2年目の研修医が5名となった 東北大学の卒後研修における地域医療重点プログラムの協力病院となっており、1年目研修医を1名、2年目研修医を1名の計2名(常勤換算0.6名)を受け入れた 	11.6人	A	B	B	A	A	

限られた人員体制の中、求められる医療機能を実践し、地域医療に貢献しました

医療機能等指標に係る数値目標(本吉病院)

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R3年度の実績状況	R3年度 実績数値	各年度の評価				
					R3 年度	R2 年度	R元 年度	H30 年度	H29 年度
本吉病院	医療機能 ／ 医療品質	在宅医療対象患者人数 参考値:120人	<ul style="list-style-type: none"> 入院から在宅復帰する方や外来治療から移行する方、ケアマネージャーからの紹介、遠方の医療機関を含め、これまで他院で治療を受けてきたがん終末期の患者さんが在宅診療を希望した際には全て受け入れた 	178人	A	A	A	A	A
		在宅復帰率 参考値:85.0% 在宅復帰率=自宅へ退院した患者数/ 自宅からの入院数-死亡退院数	<ul style="list-style-type: none"> 在宅復帰に向けて、摂食嚥下リハビリテーション、生活リハビリテーションを重視し、入院当初から原疾患の治療とあわせてリハビリを実践した 	71.6% (84.0% ※)	A	A	A	A	A
		在宅看取率 参考値:30.0% 在宅看取率=自宅+施設での看取数/ 全看取数	<ul style="list-style-type: none"> 患者さんとその家族が望む形で最期を迎えることを第一として対応した。その一方で本人・家族の気持ちは流動的であるという前提にも立ち、在宅での看取りありきの対応ではなく、その時々々の病状や家庭環境の変化に対応し、必要であれば迅速に入院医療に切り替えるなど柔軟に診療した 	36.1%	A	A	A	A	A
		臨床研修医受入人数 参考値:20人 地域医療分野での1か月間研修を1人と数える	<ul style="list-style-type: none"> 東北大学地域医療高次研修の医学実習生5人を優先的に受け入れるため、臨床研修医の受入れを従来の月2名から1名に制限し、1か月臨床研修医12人、1週間臨床研修医5人を受入れた 	12人	C	C	A	A	A

市立病院では、ホームページのリニューアル等を通じて、病院や医療に関する情報を地域住民に対して広く情報発信を行いました

住民の理解のための取組

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の実績状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	回復期リハビリテーション病棟の機能について、市民の理解を深めるよう広報していく	<ul style="list-style-type: none"> R元年度まで毎年開催をしていた地域医療交流会は、R3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった R2年度から検討していたホームページのリニューアルを実施し、住民向けの医療情報である「市民医学講座」や病院指標等の病院情報を積極的に公開している 外来待合に電子広告板を新たに設置し、各種宣言や医療情報等を提供した 	—	A	E	A	B	B
本吉病院	本吉病院が行う在宅医療の取組について、本吉病院の取組等を周知して市民の理解を深めるよう努めていく	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症のため、R3年度も地域の会合が中止・延期になることが多かった 本吉地区の住民に対するワクチンの集団接種や、地元企業の産業医活動、幼稚園・保育所・小中学校の校医活動を通して、受診患者以外の地域住民に対する健康増進支援の取組が理解されるよう努めた 	—	B	B	B	B	B

再編・ネットワーク化に向けた取組状況と その評価

病床再編・機能再編の取組の一環として、市立病院では地域包括ケア病棟の導入を検討しました

再編・ネットワーク化について

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R3年度の取組状況	各年度の評価				
			R3 年度	R2 年度	R元 年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	高度急性期は他の医療圏とも連携をしながら急性期を中心に回復期まで対応することで、安心でより良い地域医療を提供 地域の医療機関との連携を緊密にしながら医療情報の共有化を充実し、物流等の効率化の検討を進める	<ul style="list-style-type: none"> 市内の入院機能が縮小し続けていることを踏まえ、気仙沼圏域に必要な回復期機能の拡充に関する検討を行ってきた 地域包括ケア病棟の導入に向け、具体的に、対象患者像の明確化、人員配置の実現性及び事業の採算性に関する検討を行った 後方施設との連携強化のため、ケアマネージャーとの関係性が重要になることから、医療・介護の連携協議を始めた 	A	A	A	B	B
本吉病院	地域の医療・福祉関係職員や介護事業所等との連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の流行により、これまで参加していた地域フォーラムや定期的なケアマネージャーとの情報交換、事例検討は中止及び中断せざるをえなかったが、このような状況を踏まえ、地域の医療・介護・福祉連携に関して、地域医療支援システムを活用し、オンラインによる患者情報の共有に取り組んだ 	B	B	A	B	B

経営形態の見直しに向けた取組状況と その評価

R3年4月から地方公営企業法の全部を適用したことにより、病院経営の自主性を高めるとともに、市民の医療ニーズや医療制度の変化に、より一層機動的に対応することで良質な医療の提供を目指しました

経営形態の見直しについて

病院	新改革プランにおけるアクションプラン	R3年度の取組状況	R3年度実績数値	各年度の評価				
				R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	新病院開院後のH30年度に「(仮称)市立病院経営形態検討委員会」を立ち上げ、相応しい経営形態について議論を進めていく	<p>【全部適用への移行完了】</p> <ul style="list-style-type: none"> R2年度の気仙沼市病院事業審議会からの答申を踏まえ、R3年度に「地方公営企業法の全部を適用」することを決定し、計画どおりR3年4月に全部適用に移行した 全部適用への移行により、事業管理者の権限に属する事務を処理させる補助機関として設置した病院事業局の下に、2病院の事務部門を統合した経営管理部を設置した 	—	A	A	A	A	D
本吉病院	今後市立病院と一体となって議論を進め、地方公営企業法全部適用の検討を行っていく		—					